

熊本県立人吉高等学校 (全日制) 平成 29 年度学校評価表

1	学校教育目標
1	本校の綱領「礼節」「勤労」「進取」の精神を念頭に、全職員一体となって愛情と信頼を基調とした教育を実践し、心豊かで調和のとれた、社会に貢献できる人材の育成を図る。
2	「磨き 鍛えん 青春の志高く」を共通の指導理念とし、「志」達成のために真摯に努力する元気潑刺とした生徒の育成を図る。
3	地域の進学拠点校として、組織としての学校力の強化に努め、確かな学力を育成し、一人一人の進路目標の実現に努める。
4	普遍性・時代性・地域性を考慮しながら、特色ある教育を展開し、魅力的な特色ある学校づくりを実践する。

2	本年度の重点目標
	『磨き 鍛えん 青春の志高く』“自分づくりは足下から！一つ一つに魂を込めて！”
1	授業改革に取り組み、生徒の学力を向上させる。
2	生徒指導の徹底を図り、基本的生活習慣を確立する。
3	進路指導の充実を図り、自己実現を目指す。
4	道徳教育と人権教育を推進する。
5	文武両道の精神を重んじ、学習と部活動の両立を図る。
6	生徒・保護者・地域に一層信頼される学校づくりを推進する。
7	校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	広報活動の充実	中学校への学校のPR活動の充実	定員の確保	広報用チラシの作製 保護者向け説明会の実施や中学校個別訪問によるPR活動の実施	A	広報用ポスター作製を年2回実施し、地域の商業施設への掲示を通して、管内中学校と地域へのPR活動に力を入れた。その結果、7月のオープンスクールには管内中学3年生の約半数が参加した。その他に、6月の中学校3年担当職員向けの学校説明会、各中学校での説明会、9月の新聞折り込みチラシ配付、10月の保護者向け説明会とPR活動を行った。また、在校生から出身中学生に向けてのメッセージや人高NEWS全9回発行するなど、充実した取り組みを行った。
		地域への学校の教育活動に関する情報の発信	アンケート調査で「情報発信が充実している。」と回答した保護者の割合が80%以上	ホームページの更新 広報紙の定期的な発行	A	ホームページはできる限りリアルタイムでの更新を行い、人高NEWSも予定通り全9回発行した。学校要覧について

						は、昨年度と同様の構成ではあるが、本校の教育活動が一目でわかるような構成を心掛け、PR活動の重要な資料として作製した。今後も、生徒募集を視野に入れ、工夫改善を図っていきたい。
	職員の多忙化の解消	業務の効率化のための環境整備	年休や振休の取得率の向上 早めの企画書作成 会議時間の短縮	年休や振休の取りやすい環境を整備する。 年間を見据え、早めの企画や各部との調整を図る。 会議前にたたき台の案を作成し、会議時間の短縮を図る。	B	前年度の4月から12月までと比較すると、年休取得が全体で約71日分増えており、取得率はやや増加している。会議の時間短縮に努めており、効率化が進んでいる。年休取得は一人当たり6日程度であるので、年休を取りやすい体制の構築に努めたい。土曜授業の振休の取得率は考査期間中や長期休業中を中心に高い。
		効果的な業務遂行のための職員の意識改革	超過勤務時間の短縮	各自の業務の効率化を図り、超過勤務時間を短縮する。	B	前年度の4月から12月までの月80時間を超えて在校した職員の、延べ数を比較すると、前年度より19人減少している。 受験生の指導時期などは長時間勤務が多いが長期休業期間の退勤時間が早まるなど職員の意識改革が進んでいる。 しかし、80時間を超える職員が多数おり、均等な仕事量の配分や各自の仕事の効率化に努めたい。
学力向上	授業改革	生徒の学力の向上	昨年度比較による欠点者数の減少。	宿題提出強化や徹底指導	A	欠点者数は昨年度よりもさらに減少した。普段より各教科担当で宿題の提出など徹底した指導を行ったり、考査前には各学年で計画的な指導も行ったりした成果だと感じる。

		教師の教科指導力の向上	全教員の研究授業の実施 合評会の実施 教科の魅力を感じさせる授業、生徒自らが考えて学習する授業、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る授業の推進	研究授業実施者一覧を作成し未実施者へ催促を行う。 授業評価シートの活用、合評会の設定 生徒による授業評価及び業績評価により、授業内容を各自再検討する。	B	研究授業の実施は全職員が昨年ほどではないが予定通り行っている。 授業評価シートはあまり活用されていないので、授業改善のために他の対策も検討する必要がある。 生徒による授業評価では、全体的に、昨年度や1学期、2学期の比較でも高い評価を得た。
	自学の習慣化	生徒の自学習習慣の定着	黙学室利用者の増加	黙学への参加の呼びかけ	C	生徒のアンケート調査では、昨年度を0.3ポイント下回っており、Cと評価した。黙学室は、考査前の利用は多いが、通年で見るとそこまで利用していない状況である。多くの生徒は黙学室以外の場所で学習する場合も考えられる。
		家庭学習の定着	宅習時間調査による家庭学習時間の増加（昨年度比）	学年や担任による指導	B	学年によって昨年度に比べて家庭学習時間が増加した学年もあれば、減少した学年もあった。職員にすみやかにデータを提供し、指導に役立てられるようにしていきたい。
	キャリア教育（進路指導）	進路意識の高揚	進路に関する情報提供	アンケート調査で「適切な情報が提供されていた」と回答した生徒が85%以上	A	生徒は95%、保護者は87%、職員は97%が肯定的に捉えていた。保護者の割合が少ないのは、家庭まで連絡が届かないことが考えられる。担任を通じてもっと徹底したい。
		進路決定能力の育成	2年次12月における進路希望未定者10%未満	担任を中心にHR活動を活用した進路指導啓発講演会、大学訪問等の充実	B	概ね目標は達成している。今後も継続していきたい。
		個に応じた指導の充実	特Sプロジェクトの推進	難関大学希望者の進路実現	B	委員会は昨年度より多く実施した。

生徒指導	三綱領「礼節・勤労・進取」の精神の涵養と主体性をもって行動できる生徒の育成	挨拶、掃除の徹底	アンケート調査により「掃除、挨拶ができている」と回答した生徒が90%以上	挨拶の励行 掃除時間内に自分が何をすべきかを考えて行動する。	B	先生方の普段のご指導のおかげで「当てはまる」と答えた生徒が92%に達したが、残り8%に重点を置き今後の指導に活かしていく。
		主体性をもって行動する「人高生」の育成	アンケート調査により「誇りを持っている」と回答した生徒が90%以上	自立した精神と、自由と責任の重さを考えて行動することができ、リーダーシップを発揮することのできる生徒の育成を図る。	B	「当てはまる」と答えた生徒が98%に上った。学校行事や各活動で、生徒が与えられた役割の中でリーダーシップを発揮した成果と考える。残り2%に着目し今後の指導に活かしていく。
	文武両道の推進	部活動・ボランティア活動を「自分づくり・人づくり」の推進	九州大会、全国大会出場クラブの増加 ボランティア活動参加者の増加	部活動規定を遵守した部活動の活性化 定期的な部活動顧問会の実施 部活動時間の確保 施設の整備点検	B	ボランティア活動では57%の生徒が意欲的に参加してくれた。部活動も学期毎に顧問会を実施し、意思統一を図れたことが、活性化につながっている。来年度に向け働き方改革に向けた休業日の設定を進めていく。
人権教育の推進	道徳教育と人権教育の推進	職員の人権意識の向上	アンケート調査により、「先生は人権を尊重し指導に当たっている」と回答した生徒が95%以上	職員研修の実施 研修会への参加 人権教育推進委員会の活性化	B	生徒は94%、保護者は90%、職員は97%の回答であった。外部研修への参加を促して、職員の意識の向上を図りたい。
		生徒の人権意識の向上	アンケート調査により、「人権意識が向上した」と回答した生徒が75%以上	全校人権集会及び人権教育LHRの実施	A	生徒の回答は91%であった。人権集会や、学年単位でのLHRでの内容を充実させ、いじめ防止や差別の解消につなげたい。
	「命を大切にする心」を育む教育の充実	「命を大切にする」ユニットの活用	アンケート調査により「命の大切さに関する授業等が充実している」と回答した生徒が75%以上	授業及びLHR等を活用し命を大切に育む。	A	生徒の回答は92%であった。引き続き、各教科で命に関わる授業内容や、話題を実施することをお願いしていきたい。

いじめの防止等	いじめの早期発見	アンケート調査によるいじめの早期発見	アンケート調査により、「いじめをなくす取組が行われている」と回答した生徒が90%以上	定期的にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	B	「いじめをなくす取組が行われている」と回答した生徒は82%であった。毎学期アンケートを採っているが、そこからは見えない、見つからないいじめをどのように発見していくかが課題である。
		担任との面談によるいじめの早期発見	アンケート調査により、「担任等に悩みを打ち明けることができる」と回答した生徒が80%以上	面談だけでなく、普段の学校生活の様子を観察し、いじめの早期発見に努める	B	「担任等に悩みを打ち明けることができる」と回答した生徒は78%だった。今年度は、担任や職員への相談から、いやがらせやいじめが見つかったこともあり、職員と生徒との信頼関係の構築は今後も大切だと感じた。
	いじめ根絶への取組	生徒会によるいじめ根絶の呼びかけ	生徒会のいじめ撲滅宣言携帯電話等のルールを守っている生徒が80%以上。	生徒会による「いじめ標語」の募集 いじめ撲滅宣言の作成及び携帯電話等のルール徹底の呼びかけ	A	生徒会のいじめ撲滅宣言を考える集会を持てたことでいじめに関する共通理解が図れた。携帯電話等のルールを守っている生徒は、「当てはまる」「やや当てはまる」で100%の数値が出たが、今後も意識の向上が必要だと感じた。
		いじめ対策委員会の活性化	いじめの解消率100%	学年団を中心に速やかにいじめの解消に向けて、取り組みを行い、解消率100%を目指す。解消後の支援も行う。	B	学年団を中心に速やかに取り組みに向かうことができたと思う。解消とまでは行かないが、情報をこまめに交換したり、対策を複数の職員で考えたりすれば、職員の負担も軽くすることができると感じた。
	地域連携(コミュニティ・スクールなど)	防災教育の充実	学校防災年間計画を作成し、防災教育の充実を図る。	生徒の防災意識を高める取組を計画し、生徒の地域との連携の重要性を認識させる。	A	学校運営協議会を通して、年間計画や防災マニュアルを作成・検討し、しっかりと取り組むことができた。

	、防災意識の高揚と、地域と一体となった連携体制の構築	地域や関連機関との連携の確立	学校運営協議会を設置し、計画的に協議会を開催する。	年間４回の協議を通して、防災拠点の役割を確立し、地域との連携を強化する。	A	学校運営協議会の総役打ちで、市主催の避難訓練や、中合避難分担任やせが、当日も対応できなかった。次回にしたい。
--	----------------------------	----------------	---------------------------	--------------------------------------	---	--

4 学校関係者評価

1 学校評価表（自己評価）の内容や評価について

(1) 学校教育目標について

- 目標の筆頭に、本校・定時制・分校とも統一した内容になっています。伝統校である本校にふさわしい、格調高い表現だと思います。今後もそのスタイルを維持してほしい。
- 本校の綱領である「礼節」「勤労」「進取」の精神で、共通の指導理念を持った教育を実践するための教育目標は、個人育成から時代・地域性にまで考慮した素晴らしい目標だと思います。
- 学業や進学だけに偏らない立派な教育目標だと思う。
- 教育目標は、守るべき伝統と時流への対応のバランスがとれた、わかりやすい目標となっています。
- 教育目標と重点目標、自己評価総括表（項目、具体的目標）の関連が分かりにくかったです。関連がつけられたら、重点目標の進捗状況により把握しやすいです。

(2) 学校評価の内容や方法について

- 内容や方法は適切だと思います。生徒・保護者・職員との比較表も、グラフや色分けで工夫するなど比較しやすいものとなっています。
- 毎年の学校評価やアンケートを参考に、反省点・強化点など考慮した重点目標があげられ、それに対する具体的方策があげられ、さらに成果と課題が示され、大変わかりやすい方法で示されていると思います。
- 生徒、保護者、職員それぞれの評価がわかりやすく示され、いいと思う。
- アンケート及び各種データによるもので、方法としては妥当だと思います。アンケート項目には、黙学室の利用（教室でする子も多い）など、把握したいことと回答のずれがあるものが見られます。

(3) 学校評価の結果について

- 三者それぞれの立場から評価されており、それぞれにおいて、成果と課題が現れています。課題での共通点は予習復習が低調である点です。
- 毎年の努力の成果が良い結果として出ていると思います。ただ、アンケートの数字で出る結果だけではないと思うので、小さな声も評価の一つとして、心のどこかに止めてほしい。
- いい結果だと思う。全体としてもいいし特別に改善すべき点もない。三者の差もない。じつにうまくいっているのではないかな。
- 全体的によい評価で、昨年との数値変化の分析もできていてよかったと思います。分析が主に昨年との比較なので、節目の年か何かで、中期の分析（５年前）とかをしてみるのもいいのではないのでしょうか。傾向が分かるかもしれません。
- アンケートではそれぞれの結果が少し上がっているので、引き続きの向上を願います。
- しっかり考察が行われていると思います。

2 教育活動・その他の学校運営の改善に向けた取組について

(1) 学校経営について

- 人口減少の中での生き残りをかけて、定員の確保が最重要課題でしょう。これには広報活動の充実が図られています。その成果はあったようです。
- 継続的広報活動の充実により、着実に効果が出ていると思います。ホームページのリニューアルなど時代性を生かし、よりよい取組ができていると思います。
- 一年間真剣に取り組んでこられたことがよく分かる。生徒会運営が実に素晴らしい。人吉高校史上これほど学校運営に貢献している例は他にないと思う。
- 中学校へのPRはしっかりなされており、感謝しています。
- 広報等、努力が感じられます。また子どもたちがいろいろな場で、「人吉新聞」や「どうぎゃん」などに載ることも大きいですね。
- 学校改革についてももしっかり取り組まれていると思います。
- 職員の多忙化の解消についても、少しずつ成果が出つつあります。

(2) 学力向上について

- 教師の指導力の向上に努められておられ、授業評価も上がっています。課題としては、自学の習慣化でしょう。予習復習や黙学室の利用状況が低調です。欠点者は減っていますので、総じて成果は出ていると思います。
- 具体的目標に対して、提出物の徹底指導と具体的方策がはっきりしていて、成果としても確認しやすいと思う。
- 進学結果に表れているが、進学校としての責務を十分に果たしておられる。
- 学力の向上には家庭学習が重要であり、授業の予習復習の励行に努める様にご指導いただきたい。
- 黙学室利用及び宅習時間については、主体的に学ぶ姿勢という点でも物足りないものを感じます。
- 自学は中学の頃からできていないかとも思います。中学校の先生方とこのような情報を共有してはいかがでしょうか。黙学室の利用以外の現状把握がほしい。

(3) キャリア教育（進路指導）について

- 進路意識を向上させることによって、早い段階から自己決定ができるよう指導されており、その成果は出ているようです。ただ、家庭との連携において十分でない場合がある部分も感じますが、今期も素晴らしい進路指導の成果があったと思います。
- 適切であるとともに、特に教師、学校のサポートが充実していると感じる。
- 進路に関する情報はしっかり提供されているようだが、それが保護者と生徒の間でしっかり共有されているか、また、コミュニケーションがとれているのか確認が必要ではないでしょうか。
- 主体的な学びという点において、生徒に進路目標がうまく持たせていないのではないかと心配をしています。
- キャリア教育で見ている幅が狭いような印象があります。進学、センター試験、国公立と決めている子には、大変充実した指導だと思います。今は選択の幅が広いので難しいです。公務員試験を受ける子たちについて、公務員ならなんでもいい。とにかく受験するという姿勢だと、就職してから怖い。他の職種もそうだと思いますが、子どもたちがどのくらいきちんと分かっているのか、分からせるのは難しいです。

(4) 生徒指導について

- 「挨拶・掃除」についての生徒の評価は低調ですが、全体としては、高評価を得ています。人高生らしい、精神の涵養が育まれています。ボランティア活動については、進学校だから時間的制約もあると思いますが、今以上に活動させてほしいです。
- 生徒自身、自分が何をすべきかを考えて行動するという具体的方策に、先生方自身が示されて行動され、それが良い結果に繋がっていると思います。
- 生徒指導についてさらに高めていきたいという旨の記述が見られ心強く思っています。
- ボランティアについても努力されていると思います。
- ボランティア、地域活動等いろいろ自分づくりの機会があり、よいと思います。
- 問題ないと思います。生徒の挨拶はよいと思います。

(5) 人権教育の推進について

- 三者それぞれの評価は高いようです。職員自身の人権意識が、自然と生徒に伝わっている左証でしょう。このことはいじめの防止にもつながることでしょう。
- この問題に関しては、各個人の心の中までは計り知れないものがあると思います。色々な方の授業を受け、多くの人との対話も大切なことだと思います。
- 命を大切にする心を育む取組については、今後も充実させてほしいと思います。
- 家庭と協力し、基本となる挨拶の励行のご指導と命と物品を大切にする心を養っていただきたい。

(6) いじめの防止等について

- 種々の取組は評価できます。特に、生徒会も自主的に取り組んでいることが頼もしいです。にもかかわらず評価が若干低いのが気になります。「かくれいじめ」がないか、引き続きアンテナを張って注意して行ってほしい。
- いじめはなかなか表に出てこないものもあると思うので、アンケートという数字だけでは本当の全体像が見えにくいと思います。こまやかな情報交換が必要だと思います。
- 高校生になるといじめも見えづらくなってくるものでは、と思います。当事者だけでなく、周囲の生徒たちがいじめ防止に積極的に動くための、生徒主体の取組等も大切になってくるのではないのでしょうか。
- いじめの形態が複雑多岐にわたっているので、子どもの動向には最善の注意を払って頂きたい。
- あまりよく分かりませんが、人吉高校に来る子たちは、いじめにエネルギーや時間を使わないようなイメージがあります。

(7) 地域連携（コミュニティ・スクールなど）について

- コミュニティ・スクールの取組を通じて充実してきていると思います。

- 昨今は、災害が多発するようになりました。本校も防災拠点として、その役割を果たすべく取り組んでおられます。社会的要請に応えるべく、引き続き取り組んでほしい。
- 目標も具体的方策もしっかりとした取組がなされ、連携として効果が上がっていると思います。
- 学校を地域避難所として防災訓練に協力されるなど素晴らしいと思います。
- 訓練参加等、人高生が地域と繋がる一歩としてよいと思います。
- 来期はもっと熊本地震被災校の生の声を聞きたい。
- 海外への研修参加や地域活動にここ数年特に積極的に参加しているように思う。それだけではなく自分たちで議論したり、多勢の前で進んで意見を述べたり、きちっとした成果を出している生徒たちもいる。そんな姿に頼もしささえ感じます。生徒を応援する学校の姿勢にも大変好感が持てます。ぜひこの新しい伝統を続けてください。

(8) その他

- 昨今、すばらしい進路実績を残しておられます。地域の拠点校として、教師の指導と関係者一同の連携の結果でしょう。
- 評価制度も地に着き、成果と課題がよく見える仕組みが定着した感があります。毎年同類の評価項目で評価が低調なものもありますが、総じて評価値は上昇しています。先生方の懸命な取組に、心から敬意を表します。
- 今回、生徒さんが地域貢献の考えをしっかりと持って、また、現在の活動が勉強、部活のみでなく、地域活動へ参加して、将来、自身の進路の先に何らかの形で、故郷に貢献したいと考える生徒さんの話を聞くことができ、とても頼もしく、すばらしいと思いました。生徒自身、日々の努力、意識付けがよく、これは、先生方の継続的指導の成果が出ていると思います。
- この学校の評議員であることを誇りに思う一年間でした。学校は確実に時代の流れに乗っていい方向に変化していているように思います。今年もそんな人材の成長を生徒たちに見ることができました。今後も学校自らがどんどん新しいことにチャレンジしてってください。
- 人吉高校の校風、教師の質、生徒の生活態度など、他校と比べても充実しており立派だと思っています。更なる向上を期待します。
- 進学校として学習指導に当たられるとともに、子どもが如何に学校生活を楽しく過ごせるか心遣いがなされている。部活動の充実も素晴らしいと思います。
- 人吉高校に入る子どもの幅が広がり、特Sのような学力も、自立心も備わっている子から、なんとなく普通科にすべりこんだ子までいる中、指導がますます難しいと思われます。いい子の活躍をどんどん見聞きし、うれしいとともに落ちこぼれていく子、満たされていない子は大丈夫かと心配してしまいます。今後も評価の機会などで、把握、察知をよろしくお願いします。悩み、苦しみは若いのでつきものですが、それが深刻にならないよう、また、フッとゆるめる時を持てたらと思っています。

5 総合評価

例年、国公立大学100名前後の合格者を出し、地域の進学拠点校としての役割を果たすため、職員一同が努力を重ね、一定の成果を上げた。生徒は人高生としての誇りを持って学校行事に充実感を持って取り組んでいる。このような生き生きとした生徒の活動状況を受け、学校評価では、概ね全般的に高い評価をいただいた。

学校評議委員、秀麗会役員と生徒会の役員生徒との対話では、生徒の活動状況や様々な場面で意欲的に取り組む姿勢に感銘をうけていただいた。

生徒、保護者、職員三者を比較するアンケート結果を示し、三者の学校運営における成果と課題の共通点を認識することができた。その他にも、職員研修、長期欠席の生徒への対応、スクールカウンセラーなど教育相談に関することで、活発な協議を通し課題が見えた。

6 次年度への課題・改善方策

生徒、保護者、職員のアンケートの結果にも表れているが、家庭学習の習慣化が一番の課題となっている。予習・復習の徹底については、教務部を中心に各教科に呼びかけ、改善策を検討したい。学校では掃除や挨拶はよくできているが、家庭での手伝いや地域での挨拶の状況など、今後も連携を取って取り組んでいく必要がある。今年度からコミュニティ・スクールを開始し、学校運営協議会等を通して地域の防災拠点の役割や防災教育の充実を図った。新しい学習指導要領や大学入試改革等、時代の流れにしっかりと乗りながら、きめ細やかな指導を心がけることを忘れることなく、今後も、更なる充実した教育活動と実践していきたい。